

サービスをとおして

このテーマを仲間から頂いた時、「私、特に何もしてないよ」と言い、OAにつながって数年経っているのに恥ずかしいな、という思いと、困ったなと思っていた。

でも、仲間の方から、「チェアマンや会計、文献のコピーとか色々やってんじゃん」と言われて、あーそうか、そういうこともサービスなんだなあと気付かせてもらえた。

今まで、サービスなんて全く思わないで、ただ、そうすることが必要だということで動いていたから、そこから自分にどういうことが起こったのか、振り返って見るのも自分の中でなかなかピントが合わない。

今の時点で言えることは、文献のコピーをしている時は、OAの会場にいないけど仲間のことや自分自身の体験を思い出し振り返っていたり、自分の部屋にいるのにすごく、気持ちが静かで穏やかで、ミーティング場にいる時のような幸せな時を過ごしていた。

固定メンバーが 2 人でのミーティングが続いていた時、一人のメンバーが仕事で遠方へ行くことになり、他に誰もいないので、必然的にチェアマンと会計、コンタクトパーソンを引き受けることになった。ものすごくやる気があったわけでもなく、かといって拒否する気もなく、与えられたことを引き受けただけという感じだった。

その後、他のメンバーが誰もミーティング場に現れなくて、最初は寂しいけど仕方ないか、と思って呑気に構えていたが、何週間も続いてくると、分かち合いができないことが苦しく感じたり、自分の回復と成長が止まってしまうのではないかと、悪くすると元の状態に戻ってしまうのではないかと不安になってきて、ハイヤーパワーに「新しい仲間を与えて下さい」と祈ったりしていた。それでも新しい仲間は現れず、「もう、この会場を閉じてしまおうかな。私もいつまでこの土地にいるかわからないし…」と考え出していた。それからしばらくすると、突然、同じ日に 5 人もの新しい仲間がミーティング会場に現れた。いきなり大勢の(その時の私にとっては 5 人は数名ではなく、大勢としか感じられなかった)仲間にもまれて、緊張するし萎縮してくるし、何を分かち合っているのか解らなくなるし、大変だった。でも、ものすごく有り難いと思った。閉じようかと迷っている時に自分が望んでいた以上の仲間を与えられて、これは、まだ閉じないで続けなさいというハイヤーパワーからのメッセージだと思った。仲間の一人から、一人でずっとこの場所を開いてくれてたんですか？と喜んでもらえた時、私は、自分のことしか考えていなかったからこの会場を閉じようと思ってたんだなあ、自分の知っている仲間だけではない、まだ、会ったことのない仲間のことも仲間なんだ、と気付かされた。

私は、あと数ヶ月で本当にこの土地を離れる事になってしまった。今は、新しく繋がってきてくれた仲間にも会計など、少しずつ引き継ぎをしてもらっている。今は、ただ自分の中にあるものをできるだけ伝えていきたいと願い行動している。新しい土地に移っても今のグループに直接関わる事はほとんどなくなると思うが、何らかのかたちで、OAに奉仕していきたいと思っている。

さっぼろOA ばん